

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力のお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

研究課題名	抗がん剤誘発末梢神経障害に及ぼす鎮痛薬および鎮痛補助薬の影響の検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山 隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	愛媛大学医学部附属病院薬剤部 助教・副薬剤部長 飛鷹範明
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2026年 3月 31日
対象	2009年4月から2019年12月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち抗がん剤であるオキサリプラチンを使用した治療を1回以上実施した18歳以上の患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、既往歴、使用薬剤、血液検査データ、副作用の有無等
研究の概要	鎮痛薬(一般的な鎮痛薬:非ステロイド性消炎鎮痛薬やアセトアミノフェン、医療用麻薬)および鎮痛補助薬(プレガバリン、ミロガバリン、抗てんかん薬、抗うつ薬など)は、がんの患者さんの痛みや神経が障害されることで生じるしびれ・痛み(神経障害性疼痛)に対して使用されています。しかし、これらの薬が抗がん剤(オキサリプラチン)の副作用である末梢神経障害に対する影響は十分に調査されていません。 そこで、この研究では、対象患者さんの診療録(カルテ)の情報を収集し、抗がん剤(オキサリプラチン)に伴う末梢神経障害に、鎮痛薬および鎮痛補助薬がどのように影響を与えるか評価する研究を行うことといたしました。各治療薬を使用した患者さんと使用しなかった患者さんにおいて抗がん剤による末梢神経障害を認めたか否か、認めた場合の重症度(Grade)や認めるまでの日数等を調査して比較し、解析します。
個人情報の取扱い	この研究は、松山大学薬学部と共同で行っています。収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除し、パスワードを付加した電子ファイ

ルにて CD-R に保存して松山大学薬学部に移送します。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。また、患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。

保管される試料・情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

研究分担者	松山大学薬学部医薬情報解析学 准教授 武智研志
既存試料・情報の提供のみを行う機関	松山大学薬学部医薬情報解析学

お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院薬剤部 飛鷹範明 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5731
---------	--